

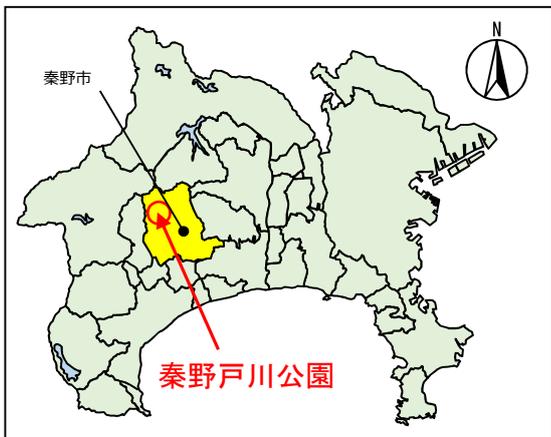
No.10 秦野戸川公園 都市公園整備事業

◆ 事業概要

1. 概要

1) 全体の概要

ア) 本公園は、湘南地域北部の秦野市、丹沢山系の裾に位置し、公園中央を流れる水無川と、そこに架かる「風の吊り橋」をランドマークとする広域公園（都市計画決定面積 約50.7ha）である。
 イ) 本公園は、丹沢大山国定公園に隣接し、表丹沢の山々と秦野盆地の里山的環境の中で、様々なレクリエーションの場を提供するとともに、丹沢の登山口として多くの県民に親しまれている。



秦野戸川公園と周辺状況



公園中央を流れる水無川

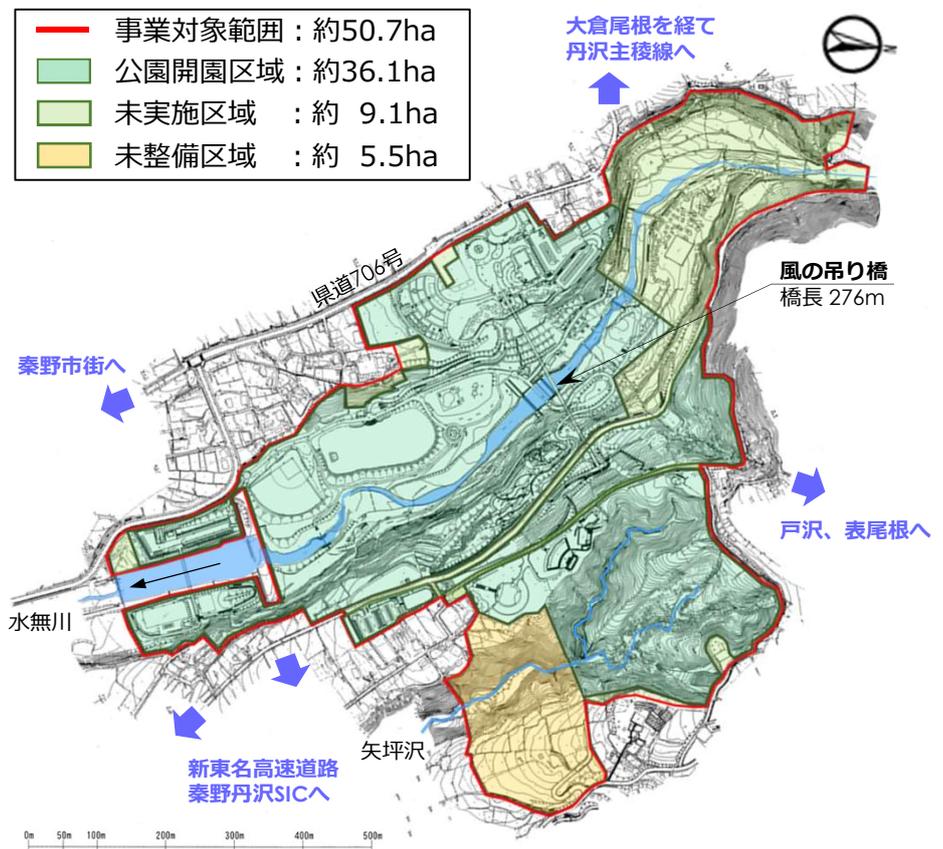


風の吊り橋のライトアップ



農体験イベント

—	事業対象範囲：約50.7ha
■	公園開園区域：約36.1ha
■	未実施区域：約 9.1ha
■	未整備区域：約 5.5ha

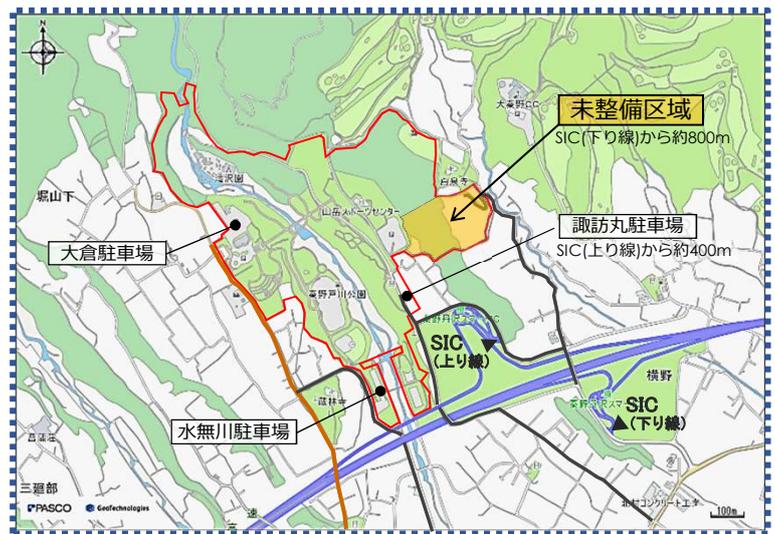


2) 評価対象事業の概要

- ア) 本公園は、四季折々の花を楽しみ、田園風景に浸り野遊びや農作業体験などが楽しめる「花の山里・ファームホリデー」をコンセプトに、平成4年度に事業着手し、平成9年度に一部開園（12ha）している。その後、整備が完了した区域を順次拡大開園し、令和6年4月現在、開園面積は約36.1haとなっている。
- イ) 本公園へのアクセスは、国道246号から県道706号（丹沢公園松原町）等を経由するルートのほか、令和4年4月に新東名高速道路「秦野丹沢スマートIC」が供用され、より広域からのアクセスが可能となった。
- ウ) 広域アクセスの充実や公園利用ニーズの変化などを受け、本公園のコンセプトを「アウトドアアクティビティパーク」に見直し、事業を進めていくこととしている。



- A 東名高速道路
- B 新東名高速道路（建設中）
- C 国道246号
- D 国道246号バイパス（建設中）
- E 県道62号（平塚秦野）
- F 県道705号（掘山下秦野停車場）
- G 県道706号（丹沢公園松原町）



(公園周辺拡大図)

3) 評価対象事業の位置づけ

ア) 神奈川県計画

①新かながわランドデザイン（令和6年3月）

実施計画（令和6年3月）：2024-2027年

○主要政策の体系：Ⅶ 県土・まちづくり

・中柱①：次の世代に引き継げる持続可能な県土づくり

・小柱③：自然環境に配慮したまちづくり、主要施策706：都市公園などの整備・管理

○地域づくりの取組：湘南地域圏

・分野/主な取組：都市基盤/県立都市公園などの整備

②かながわ都市マスタープラン（令和3年3月改定）

第5章 部門別都市づくりの方針

③かながわ生物多様性計画（令和5年3月改定）

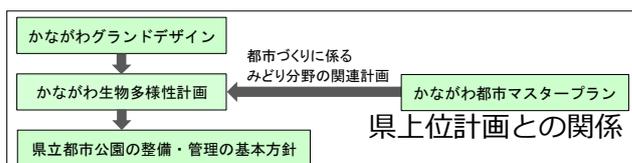
法令・制度等を通じた生態系の保全の中の一手法として位置づけられている。

④神奈川県地域防災計画（令和5年11月改定）

第2章 都市の安全性の向上 第2節 防災空間の確保

⑤神奈川県立都市公園の整備・管理の基本方針（平成31年3月改定）

秦野戸川公園 整備・管理計画（令和6年1月）：目指す姿と重点的な目標



イ) 秦野市の計画

①秦野しみどりの基本計画（令和3年3月）

②秦野市地域防災計画（令和3年3月改定）

③表丹沢魅力づくり構想（令和2年9月）

2. 事業の経緯や必要性

1) 経緯

昭和58～59年度	「大規模公園緑地系統調査」により適地を抽出
昭和63年度	「新規広域公園候補地選定調査」により候補地に選定
平成2年度	「秦野戸川公園（仮称）基本計画」を策定
平成3年度	都市計画決定（約50.7ha 広域公園）
平成4年度	事業着手
平成9年度	秦野戸川公園の開園（約12.0ha：水無川左右岸の一部、及び山岳スポーツセンター敷地）
平成10年度	開園区域の拡大（約8.1ha（累計 約20.1ha）：水無川左岸の一部、及び右岸下流側）
平成13年度	開園区域の拡大（約6.5ha（累計 約26.6ha）：水無川左岸下流側、及び大倉地区の一部）
平成14年度	開園区域の拡大（約0.6ha（累計 約27.2ha）：水無川右岸の一部）
平成17年度	開園区域の拡大（約7.4ha（累計 約34.6ha）：自然観察の森の一部、及びBBQ場）
平成20年度	開園区域の拡大（約0.7ha（累計 約35.3ha）：はだの丹沢クライミングパーク敷地）
平成23年度	開園区域の拡大（約0.75ha（累計 約36.1ha）：自然観察の森の一部）

※ 重要な施設は概ね整備が完了しているが、公園の北西側にある民間キャンプ場では、用地買収の見込みがたっていない。

※ 前回評価時点(H28)では、新東名高速道路の開通の影響を見通せなかったことから、未整備区域は整備を行わず、事業を完了する考えであったが、令和4年4月にSICが供用開始されたことから、公民連携による未整備区域の整備を視野に事業を進めることになった。

2) 必要性

- ア) 丹沢山麓の山里的な田園景観や自然環境を良好に保全し、活用していくことが求められている。
- イ) 広域交通網に近接する立地特性を活かし、災害時には広域応援活動拠点などとしての活用が求められている。
- ウ) 表丹沢の玄関口にあり、新東名高速道路などへのアクセス性が優れていることから、表丹沢地域のにぎわいの創出や活性化への貢献が求められている。

3. 事業の目的

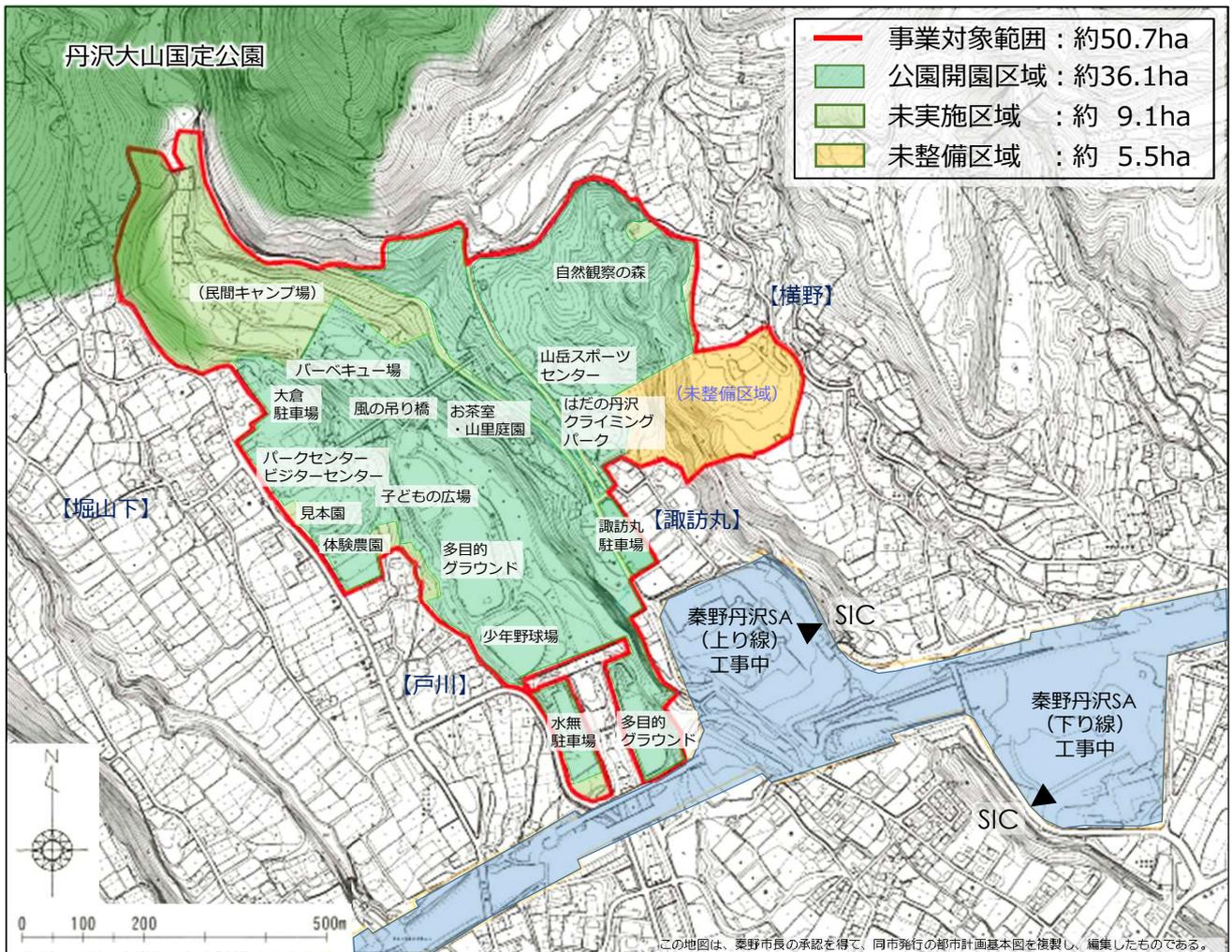
- 1) 丹沢山麓縁辺部に残された里山を、都市公園として整備し、多様な自然環境の保全と活用を図ることにより、県民の豊かな生活の実現に寄与する。
- 2) 災害発生時の避難所や広域応援活動拠点として活用し、地域の防災力の向上に寄与する。
- 3) 県民の広域的なレクリエーション活動の拠点として、多様なイベントの実施などを通じて、表丹沢地域の活性化に寄与する。

4. 事業の内容

- 1) 公園種別：広域公園
- 2) 所在地：秦野市 堀山下・戸川・横野
- 3) 計画面積：約50.7ha
- 4) 開園面積：約36.1ha
- 5) 主要施設：パークセンター、風の吊り橋、多目的グラウンド、野球場、駐車場、見本園、庭園・茶室、自然観察の森、はだの丹沢クライミングパーク、山岳スポーツセンター、バーベキュー場、など

5. 事業実施にあたって配慮した項目

- 1) オオタカへの配慮
有識者及び保護活動団体等との協働により、平成18年度にオオタカに配慮した公園整備に係るガイドラインを作成し、利用運営会議において、公園整備に関する情報提供や意見交換を行った。
- 2) 周辺環境の変化への対応
公園東側の未整備区域については、新東名高速道路の整備による公園の立地特性の変化や、秦野市が進める地域づくり構想との連携など、社会情勢の変化を踏まえた計画への見直しを進めている。



秦野戸川公園全体平面図



公園のランドマークである「風の吊り橋」



市民参加で植え付けた7万本のチューリップ花壇



全国有数のクライミング競技施設
「山岳スポーツセンター」



盛況の屋根付きバーベキュー場



子どもに人気の大型遊具

◆評価の視点

1. 事業の必要性に関する視点

1) 事業を巡る社会経済情勢

ア) 地域の状況

- ・丹沢・大山地域への観光客数は、登山ブームなどもあり、平成30年は約1,300万人であったが、新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、令和2年は約850万人まで減少したが、令和5年には約1,200万人まで回復するなど、引き続き来訪者のアウトドア・アクティビティ志向は堅調と言える。

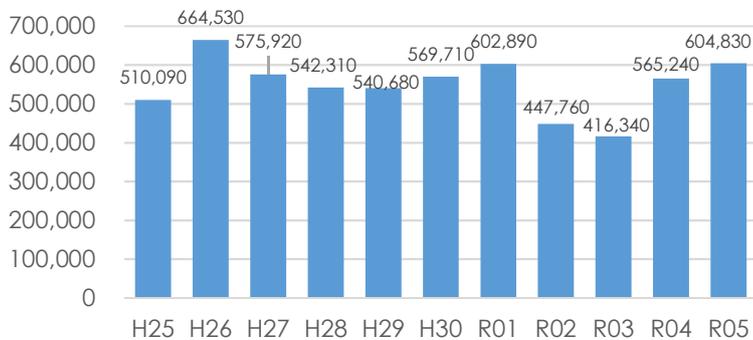
イ) 地元の意向

- ・令和5年度の利用者アンケート結果では、利用者の半数以上が秦野市内から訪れており、地元住民の遊び・憩いの場となっていることがわかる。
- ・公園の運営・管理を行うにあたり、指定管理者が「秦野戸川公園利用運営会議」を設置して、地元自治会や園内での活動団体等と、意見交換・情報共有を図りながら取組を進めている。
- ・表丹沢の開山祭も兼ねた「秦野丹沢まつり」や秋の「秦野戸川公園まつり」等の大規模なイベントが毎年開催され、地域住民の交流の場となっている。
- ・花壇や見本園等の管理、森林セラピーイベントなどは、地域住民の活動の場となっており、地域・市民活動の拠点として認知・活用されている。

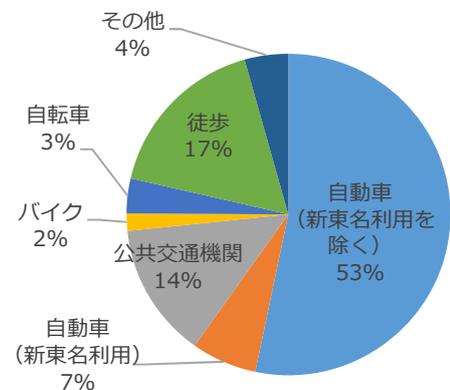
ウ) 公園利用者数の推移

- ・公園の利用者数は、令和元年度は約60万人あったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度は、約42万人まで減少したが、令和5年度には約60万人と従前の水準にまで回復してきている。

公園年間利用者数（人／年）



公園までの利用交通手段（総回答数229）



エ) 周辺的环境

- ・秦野丹沢スマートICの開通から3ヶ月後に実施された上記利用者アンケートによれば、新東名高速道路の利用者は約7%であったが、令和9年度の全線開通後は、さらに新東名高速道路の利用者が増えることを想定している。

オ) その他

- ・利用者満足度調査では、本公園の利用について「満足」「どちらかといえば満足」と回答した方が、令和5年度は約98%、過去10年平均では約96%おり、高い満足度を得ている。
- ・地域防災計画では、自衛隊・消防部隊の広域応援活動拠点とされているほか、パークセンターと山岳スポーツセンターが避難所に指定されている。
- ・平成29年の都市公園法改正により、従来の指定管理者制度に加え、「公募設置管理制度」（Park-PFI）が新たに設けられるなど、都市公園における公民連携により、地域づくりへの寄与が一層、求められるようになってきた。

2) 事業の投資効果等

■費用対効果

社会的割引率		4%の場合		1%の場合	
B/C		1.7		4.0	
費用	用地費	692億円	353.3億円	279億円	77.2億円
	建設費		274.7億円		138.2億円
	維持管理費		63.6億円		63.6億円
便益	直接利用価値	1,187億円	508.4億円	1,120億円	452.9億円
	間接利用価値		678.6億円		667.4億円

経済的内部収益率 (EIRR) 7.4%

■総合的な効果

ア) アウトドア・アクティビティの拠点として

表丹沢の自然や人文の展示を行う秦野ビジターセンターや、スポーツクライミングなどのアクティビティ施設があり、多くの方に利用されている。

また、環境への問題意識への高まりなどを受け、マナーの普及啓発や登坂技術向上機会の提供、登山道清掃などの山岳ボランティア活動の拠点として機能している。

イ) 教育の場として

都市と自然の結節点にあつて、自然の中での手軽な体験活動ができる場として、農体験、川遊び、自然観察や里山の管理ボランティアなど、自然・環境教育を学べる貴重な場となっている。

また山岳スポーツセンターとはだの丹沢クライミングパークは、スポーツクライミングの普及促進に貢献している。



水無川での川遊び

ウ) 市民参加による公園づくり

毎年開催される「秦野戸川公園まつり」やチューリップ植え付けなどは、多くの市民や地元自治会の協力のもとで実施している。

また、公園の運営・管理については、地元自治会や園内での活動団体等と、意見交換・情報共有を図りながら取組を進めている。



秦野丹沢まつり (表丹沢山開き)

エ) 魅力の創出

風の吊り橋やサクラ・茶室などのライトアップ、年間を通じて花を楽しめる植栽管理、定期的なイベント開催など、季節を問わず楽しめる公園の魅力創出に努めた結果、近年は、冬季の利用者も増加しており、年間を通じ安定した公園利用がなされている。



市民参加によるチューリップ植え付け

オ) 災害時の活動拠点としての活用

パークセンターや駐車場・広場などの公園施設は、地震や風水害などの際、周辺住民の避難場所として活用できるほか、大規模災害時は、自衛隊や消防などの広域活動拠点として、また、応急仮設住宅用地としての活用も期待されている。

2) 関係する地方公共団体等の意見

ア) 秦野市

「表丹沢魅力づくり構想」(R2.9)において、他施設と連携した気軽に自然を親しむスポットとして、さらなる魅力の向上を図り、表丹沢地域の「交流発信拠点」として機能することが期待されている。

2. 事業の進捗の見込みの視点

1) 事業の進捗状況

	前回再評価時 (H28)	今回再評価時 (R6)	前回再評価時からの変化
事業化年度	平成4年度	平成4年度	-
用地着手年度	平成4年度	平成4年度	-
工事着手年度	平成6年度	平成6年度	-
供用年度(予定)	平成30年度	令和16年度	16年追加
事業期間	26年間	42年間	16年増
事業費(単純合計)	242億円	262億円	20億円増
進捗率(用地取得率)	99.9%(96.7%) ※未整備区域を整備せず終了	94.0%(96.7%) ※未整備区域を整備して終了	未整備区域の整備費を追加
供用率	71.2%	71.2%	-
残事業の内容等	一部施設の改修	未整備区域の整備	未整備区域の整備
基準年	平成28年	令和6年	再評価時の年度
B/C	1.6	1.7	0.1増
総費用(現在価値)	536億円	692億円	
用地費	286.9億円	353.3億円	156億円増
建設費	202.8億円	274.7億円	
維持管理費	46.4億円	63.6億円	
総便益	833億円	1,187億円	
直接利用価値	340.0億円	508.4億円	354億円増
間接利用価値	493.2億円	678.6億円	

2) これまでの課題に対する取り組み状況

- ・現開園区域において、既に計画を上回る利用者が訪れており、レクリエーション拠点としての公園の利用満足度も高く、計画時の事業効果を十分に発現している。
 - 計画値：33.9万人(平成4年度公園基本計画での設定値)
 - 実績値：コロナ禍前(平成27年～令和元年)5年平均：56.6万人、令和5年：60.4万人)
 - 利用者満足度(平成26年～令和5年アンケート平均：約96%、令和5年度：約98%)
- ・協定に伴う防災機能の確保により、地域防災に貢献している。

3) 今後のスケジュール

- ・公園全体の魅力向上を目的に、用地取得済の未整備区域の約5.5haのうち、約2.3haの緩斜面地について基盤施設の設計を進めており、令和6年度から工事に着手する予定。
- ・今後は、新東名高速道路全線開通に伴う周辺の土地利用状況や、公園需要の高まりを見定めつつ、民間ノウハウの活用等を検討し、令和15年度までの整備完了を目指す。

項目	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
		(2016)	(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)	(2026)	(2027)	(2028)	(2029)	(2030)	(2031)	(2032)	(2033)
事業計画の 検討・調査	前回																		
	今回												新東名高速道路全線開通						
関係者との 調整	前回																		
	今回																		
施設整備	前回																		
	今回																		



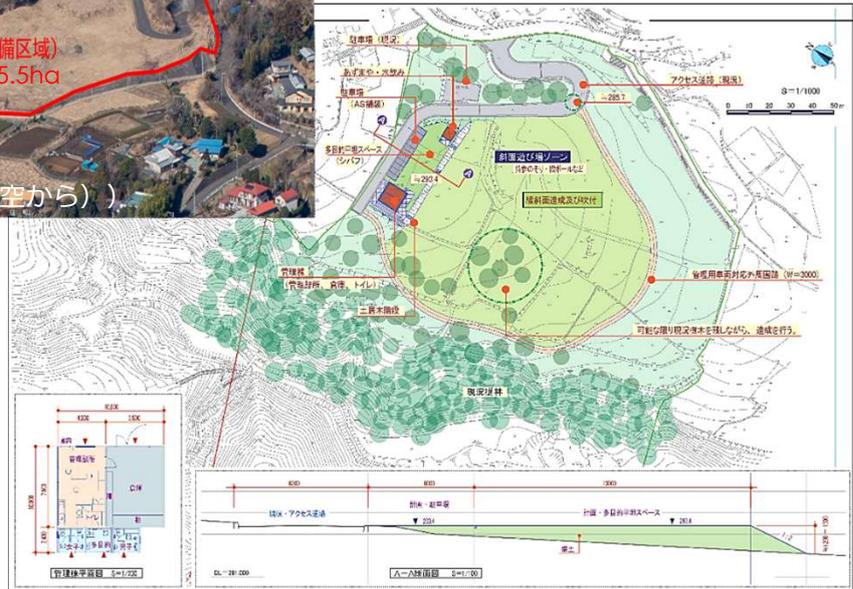
(未整備区域全景 (計画地から南東上空から))



(対象地から北側への眺望)



(対象地から南側への眺望)



緩斜面地部分の暫定利用計画平面図

3. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

1) コスト縮減

- ・公園東側の未整備区域の緩斜面地について、将来的な公民連携を念頭に置き、まずは広場として利用が可能な整備を官側で行い、イベント等で活用していく。
- ・イベント等での活用のなかで、収益性の高い土地利用を見出し、Park-PFI等の公民連携を活用した施設整備等について検討を進める。

2) 代替案立案等の検討

- ・公園東側の未整備区域は既に用地取得が完了していることから、工事を実施することで、短時間での効果発現が可能である。
- ・公園東側の未整備区域は、新東名高速道路のスマートICに近く、相模湾や房総半島までを遠望できる開放感を有するなど、高いポテンシャルを活かした公園整備が可能である。

◆ 対応方針 (案)

継続	<p>【理由】 本事業は、表丹沢山麓の豊かな自然を背景に様々なアウトドアアクティビティを楽しめる場として、既に計画を上回る利用がなされているほか、新東名高速道路の開通を契機とした交通アクセスの向上により、更なる利用促進や防災面での活用も期待されている。 今後は、本公園を含む表丹沢地域が一体となった利用拠点としての機能発揮が期待されるなど、依然として、事業の必要性や重要性は高く、事業を継続する必要がある。</p>
----	--